

## 令和4年度 宮城県特別支援教育将来構想審議会実地調査について

令和4年6月15日  
宮城県教育庁特別支援教育課

## 1 目的

宮城県特別支援教育将来構想、後期計画で整理された3つの優先課題の解決へ向けての「主な取組」について、毎年度3件程度を選定し、実地調査を行い、来年1月から2月に開催の審議会での評価をお願いします。

評価いただいた内容は、次期の宮城県特別支援教育将来構想に反映することとしています。

## 2 調査を実施する取組

## (1) 特別支援学校における就業定着支援

目標	自立と社会参加
主な取組	特別支援学校における進路指導充実
事業名	5 特別支援学校進路指導充実事業
担当課	特別支援教育課、県立特別支援学校
事業内容	○特別支援学校地域連携協議会の開催 ○講演会の実施 ○進路支援研修会の実施
取組方針・達成目標	県立特別支援学校に在籍する生徒一人一人の高等部卒業後の自立と社会参加に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すため、校内の組織体制の整備や労働・福祉等の関係機関と連携、地域や産業界等の人々の積極的な協力を得るなどして進路指導を充実させる。
令和3年度実績	○地域連携協議会や研修会、講演会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、関係機関と電話等で情報共有を図った。 ○必要に応じて卒業生の就労先を訪問するなど個別のアフターフォローを実施した。
令和4年度事業概要	○進路指導連絡協議会の実施 ・北部【代表校：石巻支援学校】、中央【代表校：西多賀支援学校】、南部【代表校：山元支援学校】の3ブロックに分かれて実施 ○進路支援研修会の実施 ○各学校の進路指導主事を対象に新しい職域（酪農を予定）とのネットワーク作り ○卒業後の支援に向けたアフターケアについての情報交換
目標	自立と社会参加
主な取組	特別支援学校における就業定着支援（優先課題1）
事業名	6 （非予算事業）
担当課	県立特別支援学校
事業内容	○個別の教育支援計画の作成と活用 ○就労した卒業生に対するアフターフォロー
取組方針・達成目標	県立特別支援学校に在籍する生徒一人一人の卒業後の自立と社会参加に向け、個別の教育支援計画を活用しながら、生徒が必要とする支援を十分に受けられるよう各関係機関（福祉機関、ハローワーク、就労・生活支援センター等）と連携・協力しアフターケアや障害者雇用に係る理解啓発、地域支援等を行う体制を整備する。
令和3年度実績	新型コロナウイルス感染症予防の観点から対策を十分に考え、各特別支援学校の進路支援部や地域支援部で、地域の感染状況や福祉サービス事業所及び一般企業の感染症対策状況に応じて進路支援を実施した。
令和4年度事業概要	○進路先への円滑な接続と支援の継続を図る切れ目ない支援体制づくり。 ○福祉サービス事業所及び企業側の新型コロナウイルス感染症予防対策に応じた進路支援の実施。 ○各校の支援の状況、方法等について活発な情報交換。

## (2) ICT機器の活用

目標	学校づくり
主な取組	ICT機器の活用（優先課題2）
事業名	12 特別支援学校プログラミング教育推進事業
担当課	特別支援教育課、県立特別支援学校
事業内容	○モデル校への備品等の整備 ○小中学部の児童生徒1人1台のタブレットPCの整備
取組方針・達成目標	知的障害特別支援学校（モデル校）における児童生徒の障害の状態や特性に応じたプログラミング教育の指導内容、指導方法の確立及び理解啓発を図り、県立特別支援学校におけるプログラミング教育を推進する。
令和3年度実績	○支援学校岩沼高等学園と山元支援学校高等部をモデル校に指定し、両校で延べ62回の授業を実施した。 ○生徒の障害の状態や障害の特性に応じた情報活用能力の育成に必要な指導内容、指導方法について教科横断的に取組み事例を集積した。 ○教科等授業での活用に加え、卒業後の自立と社会参加に向け、アンケートフォームの入力・活用や、passwordの管理、SNS等情報モラル（マナー）について学んだ。
令和4年度事業概要	○生徒の障害の状態や特性に応じた情報活用能力の育成に必要な指導内容、指導方法について教科横断的に取組み事例を集積する。 ○卒業後の自立と社会参加に向け、生活の中でICT機器をAT（アシティブ・テクノロジー）として活用できるよう基本的操作を身に付けさせる。 ○passwordの管理、情報モラル（マナー）について障害のある生徒が理解しやすいように指導内容・方法の充実を図る。

## (3) 県立特別支援学校の在り方検証

目標	学校づくり
主な取組	県立特別支援学校の在り方の検証（優先課題2）
事業名	28 （非予算事業）
担当課	特別支援教育課
事業内容	○視覚支援学校への幼稚部設置 ○聴覚支援学校の学科再編の検討 ○通学区域の再編、各県立特別支援学校の在り方を検討
取組方針・達成目標	○視覚支援学校の幼稚部は校舎の改築時に合わせた設置を目指す。 ○聴覚支援学校高等部への普通科設置及び専攻科の学科再編について、令和4年度までに検討する。 ○県立特別支援学校の児童生徒数の推移や障害等の状況の変化、社会動向等を踏まえながら令和2年度中に通学区域の再編と各学校の在り方を検討する。
令和3年度実績	○視覚支援学校の幼稚部は、視覚に障害のある幼児が1日も早く専門的な教育的支援を受けることが出来るよう新校舎の供用開始を待たずに設置準備を進め、令和4年4月に開設した。 ○聴覚支援学校の学科再編は、高等部普通科の新設と専門学科を工業科系と家庭科系の2科の学校案が示され、教育委員会として承認した。 ○第1回特別支援教育将来構想審議会において、通学区域案を提示し意見聴取した上で通学区域案の公表を行った。
令和4年度事業概要	○視覚支援学校の幼稚部は校内設置準備委員会での当課指導主事による指導助言や募集要項の調製などを進める。 ○聴覚支援学校の学科再編は、教育課程や必要な施設設備等をまとめた基本方針を策定し、令和6年4月開設を目指す。 ○小松島支援学校松陵校への高等部設置に向け、設計に着手する。 ○県立特別支援学校の狭隘化について追加対策を検討し、「第2期県立特別支援学校教育環境整備計画」に盛り込む。

### 3 日程

令和4年7月～12月

### 4 その他

○ 視察時間は事業の内容により、2時間程度とします。